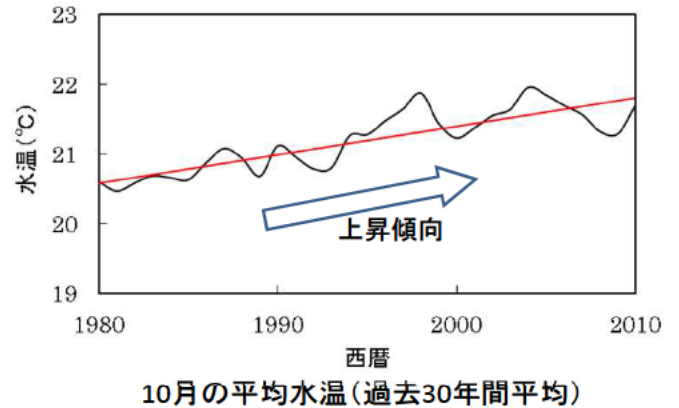


高水温耐性に優れた黒ノリ新品種「みえのあかり」

新品種開発のきっかけ 海水の高水温化

- 黒ノリ養殖は10月上旬ごろから始まる冬の養殖業です。
- 近年、海水の高水温化が進んでいます。
- 黒ノリ養殖の開始時期(23℃以下)の遅れと養殖期間の短縮化で、生産量が減少し、経営に影響が及んでいます。
- 業界から「高水温に強い品種の開発」の要望があります。



「みえのあかり」養殖状況

高水温耐性品種「みえのあかり」開発の経緯

- 「みえのあかり」は、養殖されている黒ノリ葉体から研究室内で選抜育種(細胞選抜)を繰り返すことで作出しました。
- 三重県の水産植物として初めて品種登録出願を行っています。
- 平成25年3月25日付で品種登録されました(登録番号第22538号)。

普及状況

- 平成24年度は、桑名・鈴鹿・松阪・伊勢・鳥羽地区の生産者20経営体(県全体の15%)が「みえのあかり」を用いた養殖に取り組みました。
- 来年度は、さらに「みえのあかり」の使用率が増加する見込みです。

「みえのあかり」の評価

- 年内生産期(高水温時)に生長が良好です。
- 通常品種に比べて収穫量が多いです。
- 「みえのあかり」を用いて製造した板ノリ製品の品質は良好です。
(入札時の等級分けで「上位等級」に選別されることが多い)



「みえのあかり」板ノリ製品



三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

Mie Prefecture Fisheries Research Institute

〒510-0243 鈴鹿市白子1丁目6277-4

TEL (059)386-0163

FAX(059)386-5812